



葉 山 町  
令和4年11月18日  
記 者 発 表

## 山口蓬春記念館の国登録有形文化財（建造物）への登録について

国の文化審議会(佐藤信会長)は、令和4年11月18日(金曜日)開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに葉山町一色字三ヶ岡に所在する山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)主屋、同画室を含む109件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)主屋、同画室は、後日の官報告示を経て登録されます。町内の登録有形文化財(建造物)の登録件数は、9件となる予定です。

なお、当件につきましては、国(文化庁)、神奈川県においても同時に発表がされます。

山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)主屋  
山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)画室

所在地 神奈川県三浦郡葉山町一色字三ヶ岡2320番地1ほか

所有者 公益財団法人 JR 東海生涯学習財団

建築年代 主屋 大正前期建築/昭和28・32・40年増改築/平成3・25年改修

画室 昭和28年建築

数 量 2件(1箇所)

概 要(※下線は人物概要、用語解説あり)

山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)主屋は葉山一色海岸北の丘陵に位置しており、吉田五十八の見立てにより日本画家山口蓬春が購入した自邸です。寄棟造<sup>よせむねづくり</sup>棧瓦葺の東西棟平屋建で、南東隅を二階建とし、南と東に張り出す茶の間棟・風呂棟は吉田五十八の設計により増築しています。繊細な建具や床の納まりで和室とベランダの連続性を実現する吉田らしさを加味した近代和風住宅です。

山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)画室は主屋の西側に南面しており、著名な画家の画室を複数手掛けてきた吉田五十八が最後に手掛けた画室建築です。切妻造<sup>むくりやね</sup>棧瓦葺の起屋根<sup>いそや</sup>で、周囲に銅板<sup>ひさし</sup>庇を付しています。室内は大壁とし細かな線を排除し、床を一段下げた南のベランダ境には天井高いっぱい引き込み障子を建てています。蓬春と大学同窓の吉田五十八との共作による近代数寄屋<sup>すまじや</sup>の画室です。

山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)主屋、同画室は、国登録有形文化財の登録基準「造形の規範となっているもの」として評価されました。

平成3年から山口蓬春記念館として公開活用されています。

〈参考〉

※人物概要	
山口蓬春 (1893~1971)	日本画家。本名山口三郎。大正4年東京美術学校洋画科に入学した後日本画科に転じ、松岡英丘に師事してやまと絵を学び新興大和絵会会員となる。その後、新しい日本画の創造を目指し福田平八郎らと六潮会を結成し写実を追求した。戦後は更に、日本画の近代化を追求し知的でモダンな画風を確立した。昭和25年芸術院会員、昭和40年文化勲章を受章した。 山口蓬春は戦中、東京から葉山に疎開し山崎種二別荘の2階を間借りしていたが、昭和23年に現在地を建物とともに購入し自邸とした。昭和46年葉山の自宅で逝去した。
吉田五十八 (1894~1974)	建築家。大正4年東京美術学校図案科に入学、12年に卒業後欧米での見聞を踏まえ、数寄屋建築の近代化を進め、近代数寄屋を確立した。 山口蓬春以外にも川合玉堂、山川秀峰、梅原龍三郎など画家の自邸を手掛ける。施主の山口蓬春とは旧知の間柄であり、昭和16年東京世田谷に山口蓬春が設けた戦前の自邸も吉田五十八の設計だった。
※用語解説	
起屋根（むくりやね）	傾斜面が直線ではなくやや上方にふくらんだ屋根のこと。

写真



①主屋



②主屋 1階茶の間



③画室



④画室 内部

〈担当〉

葉山町教育委員会生涯学習課 山口

046-876-1111 (内線7233)

E-mail: manabi@hayama.kanagawa.jp